

有明海の気候変動に関するシンポジウム

～気候危機時代の有明海で起こることは？今後の有明海研究に不可欠なことは？～

日時： 令和 7 年 9 月 28 日(日) 13:30～16:30(開場:13:00. 最大17時まで)

会場： 熊本城ホール A3 会議室
(熊本市中央区桜町 3 番 40 号 熊本城ホール 3 階)

参加費： 無料 定員： 150 名(先着順)

参加申込方法： QR コードから Form へ入力下さい. 9/22(月) 締切.



申込 QR コード

主旨:2000 年の養殖ノリの色落ちや,有用二枚貝の漁獲量減少などの有明海における環境劣化について、これまで多くの研究や再生のための事業が行われきた。最近の気候変動の進展に伴い、漁業への深刻な影響がみられていることなどを鑑み、有明海において気候変動がもたらす影響に関する最新の調査研究の成果を公開し、気候危機時代の有明海に適応するためにできることを議論することで、漁業関係者や市民と問題意識の共有を図ります。

プログラム：

主催者あいさつ 矢野真一郎(九州大学大学院工学研究院教授, 環境研究総合推進費 1-2303「自然外力の増加に適応する水環境保全に向けた有明海・八代海等の気候変動影響評価」研究代表者)

来賓あいさつ 西川絢子 (環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室長)

基調講演： 入江政安(大阪大学大学院工学研究科 教授) 「大阪湾の環境と気候変動影響」

話題提供：

1. 山口弘誠(京都大学防災研究所 教授)：九州地方における気候変動による豪雨の将来変化
2. 東博紀(国立環境研究所 上級主幹研究員)：気候変動が有明海・八代海の窒素輸送に及ぼす影響(仮)
3. 矢野真一郎(九州大学大学院工学研究院 教授)：有明海の気候変動による貧酸素への影響
— 休憩 —
4. 小森田智大(熊本県立大学環境共生学部 准教授)：
アサリの生産性を形づくる干潟環境：出水・餌条件・底質の影響評価
5. 丸谷靖幸(九州大学大学院工学研究院 准教授)：有明海流域における濁水頻度予測
6. 川村嘉応(佐賀大学 招聘教授)：近年の有明海ノリ養殖について

パネルディスカッション

コーディネーター：矢野 パネラー：山口・東・小森田・丸谷・川村

閉会あいさつ

主催：九州大学大学院工学研究院環境社会部門

後援：環境省, 国土交通省九州地方整備局, 熊本県, 佐賀県,

熊本県漁業協同組合連合会, 佐賀県有明海漁業協同組合, 福岡有明海漁業協同組合連合会

※本シンポジウムは、環境研究総合推進費 1-2303「自然外力の増加に適応する水環境保全に向けた有明海・八代海等の気候変動影響評価」の成果に基づく、社会との対話イベントとして開催いたします。

会場案内図



問い合わせ先:九州大学環境流体力学研究室 TEL:092-802-3411